



CLIL (Content and Language Integrated Learning) の方法論



<http://www.cliljapan.org/>

2011年8月30・31日

上智大学 池田真

makoto-i@sophia.ac.jp

CLILの多面性

'What is CLIL to you?'

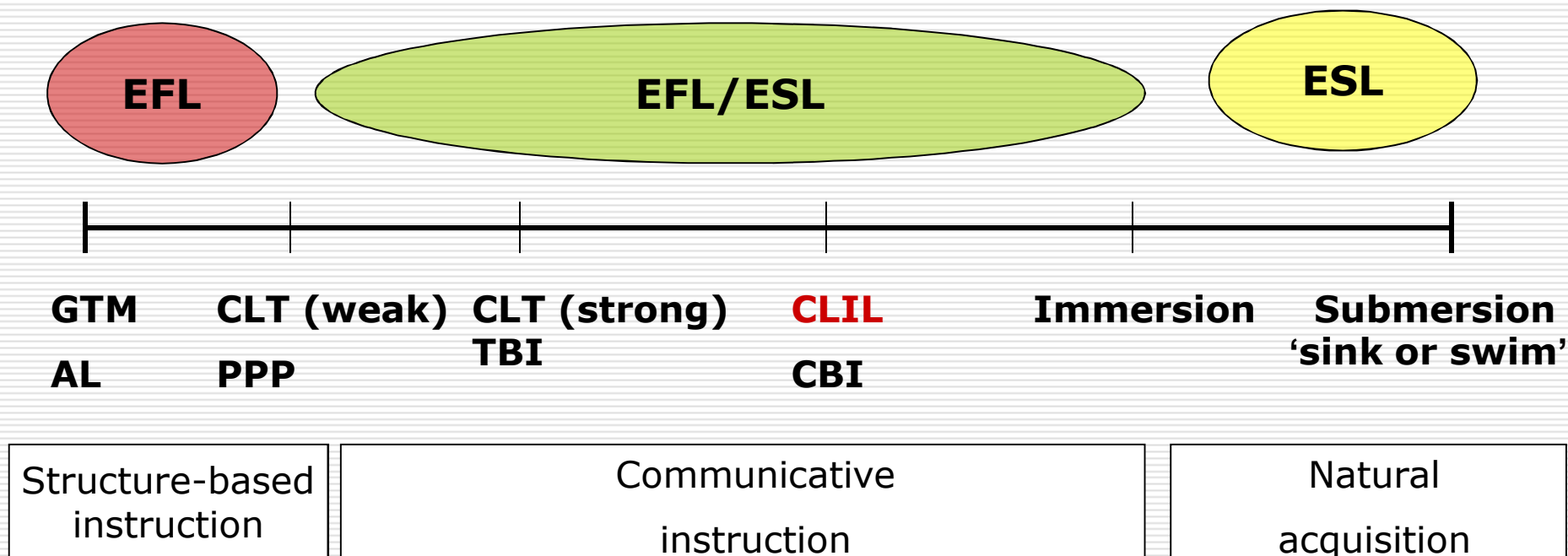
狭義（語学学習）



広義（教科学習）

- methodology
 - facilitation of language
 - approach
 - fusion/synergy
 - systematic learning
 - mindset/attitude
 - education
-

理論上の位置づけ

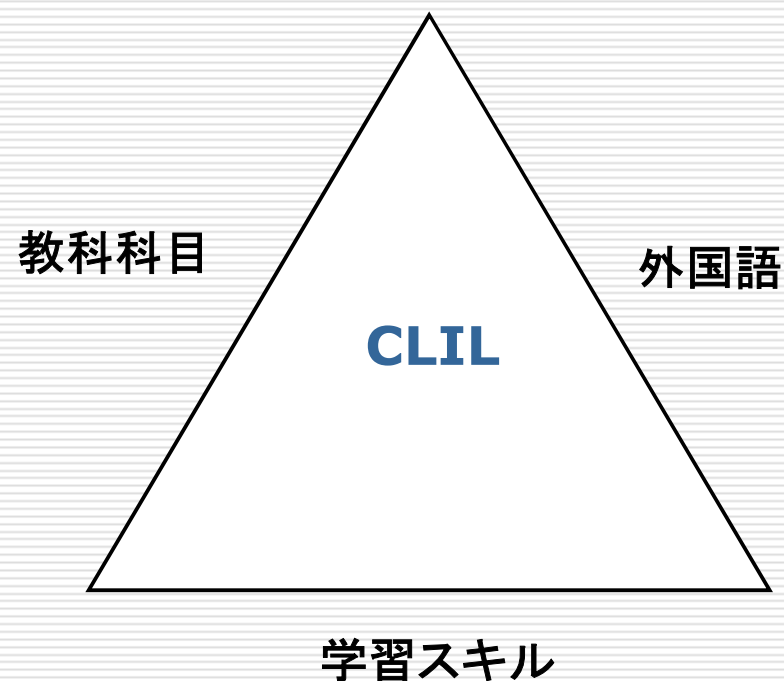


EFL = English as a foreign language
ESL = English as a second language
GTM = Grammar translation method
AL = Audiolingualism

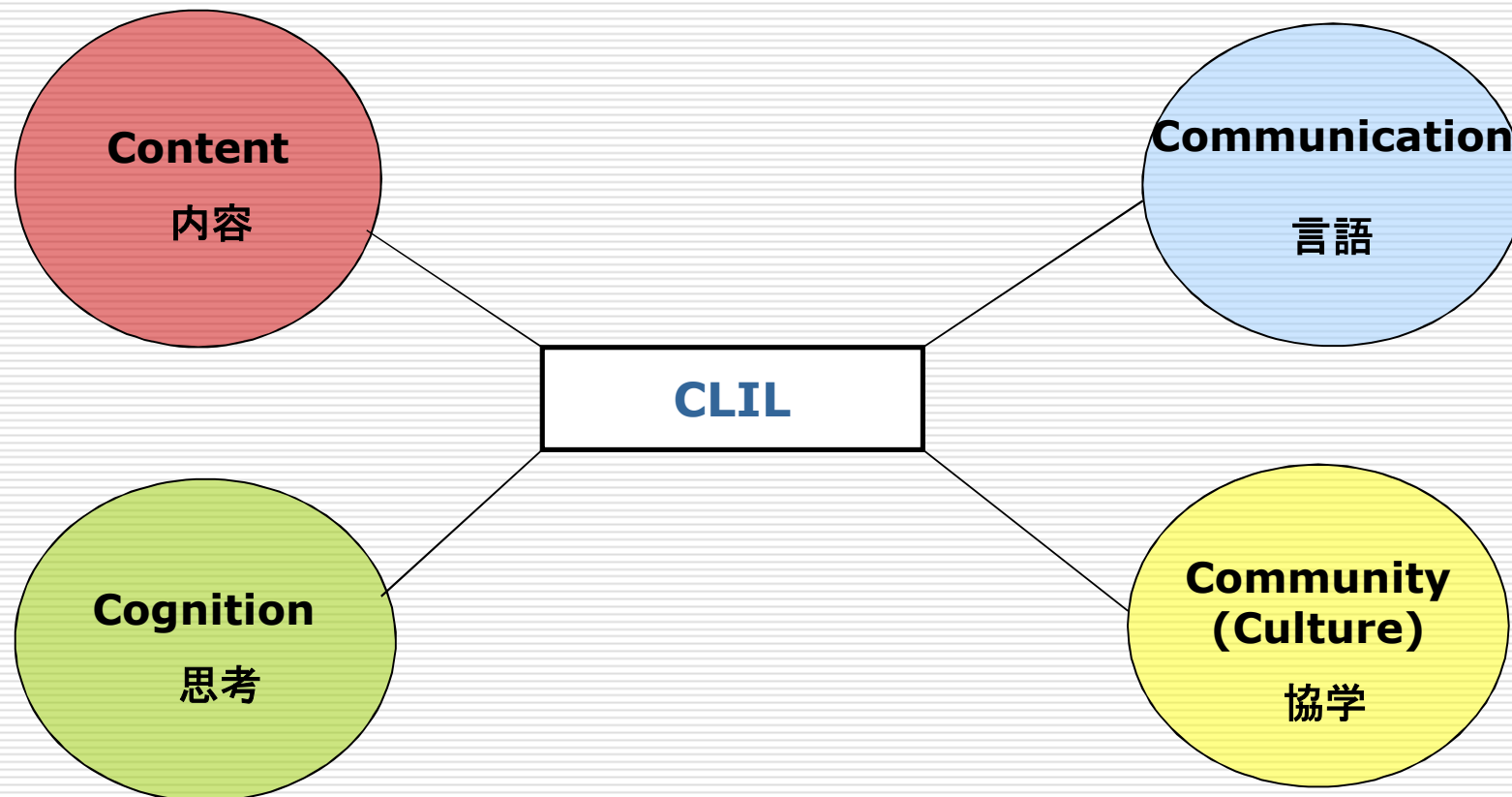
CLT = Communicative Language Teaching
PPP = Presentation-Practice-Production
TBI = Task-based instruction
CBI = Content-based instruction

CLILの定義と効用

教科を語学教育の方法により学ぶことで効率的かつ深いレベルで修得し、また英語を学習手段として使うことで実践力を伸ばす教育法のこと、学習スキルの向上も意図されている。
様々な教育原理・技法を有機的に統合することで高品質な授業の実現を目指す。



CLILの「4つのC」



Communication (3種の言語学習)

単元の言語

**Language
of
learning**

学習のための言語

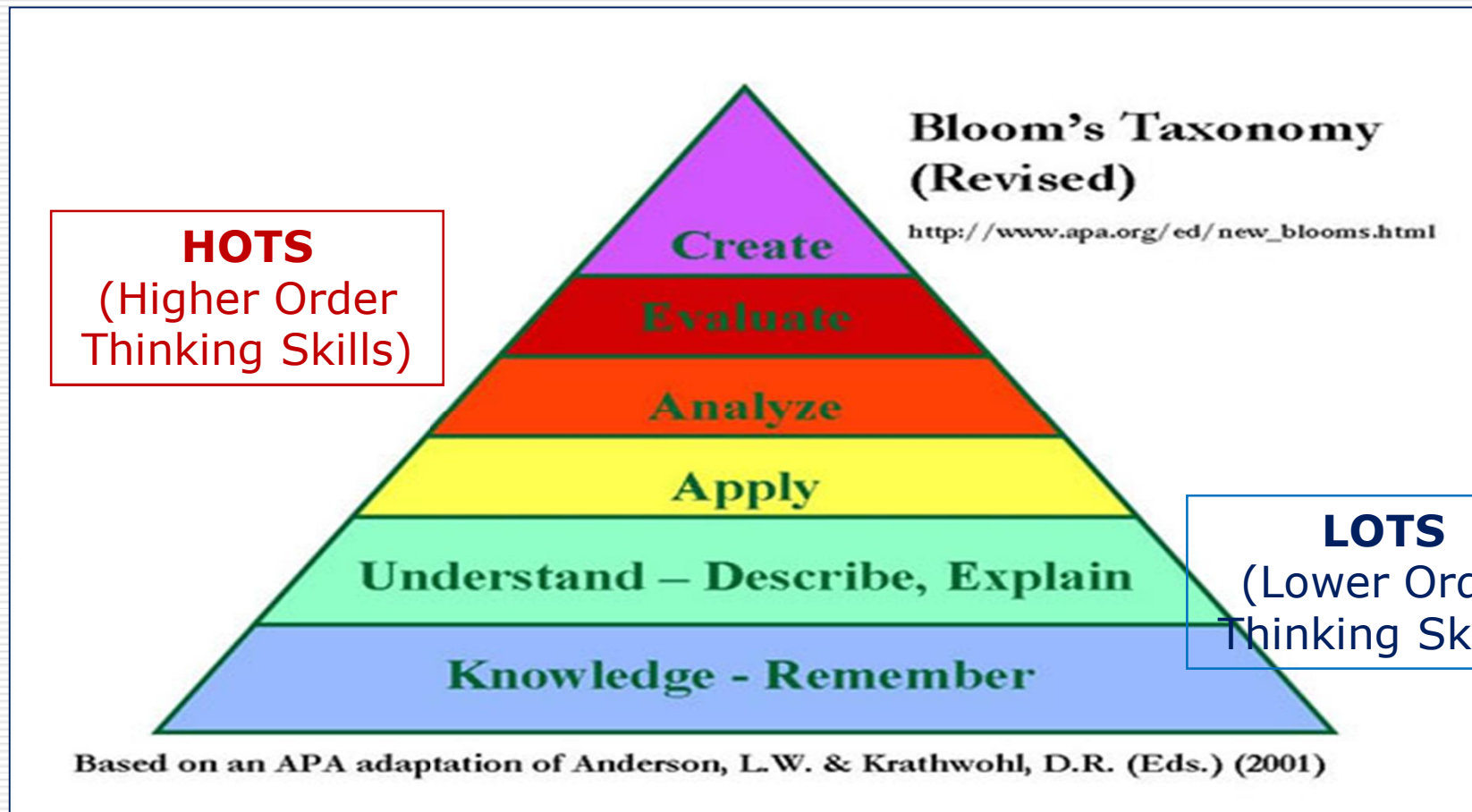
**Language
for
learning**

偶発的・繰り返しの言語

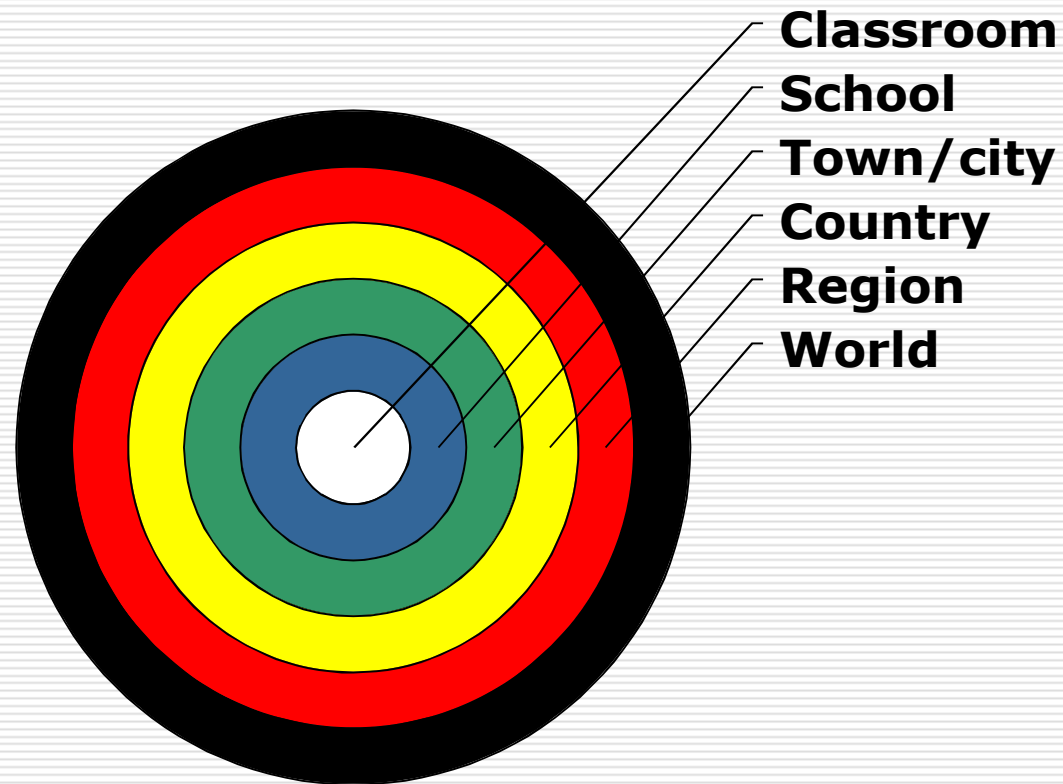
**Language
through
learning**

コミュニケーション

Cognition (思考力の6段階)



Community (協同学習)



CLILの10大原理

- 1 内容学習と語学学習の比重は1:1である。
 - 2 オーセンティック素材(新聞、雑誌、ウェブサイトなど)の使用を奨励する。
 - 3 文字だけでなく、音声、数字、視覚(図版や映像)による情報を与える。
 - 4 様々なレベルの思考力(暗記、理解、応用、分析、評価、創造)を活用する。
 - 5 タスクを多く与える。
-

-
- 6 協同学習（ペアワークやグループ活動）を重視する。
 - 7 内容と言語の両面での足場（学習の手助け）を用意する。
 - 8 異文化理解や国際問題の要素を入れる。
 - 9 4技能をバランスよく統合して使う。
 - 10 学習スキルの指導を行う。

CLILのタイプ分類

Soft CLIL

英語教育

目的

Hard CLIL

科目教育

Light CLIL

単発的・小数回

頻度・回数

Heavy CLIL

定期的・多数回

Partial CLIL

授業の一部

比重

Total CLIL

授業の全部

Bilingual CLIL

日本語・英語

使用言語

Monolingual CLIL

英語

Thank you for listening!

